

平成30年度行政評価 施策評価シート (平成29年度実績)

施策名 健康づくり支援の充実

施策コード 030501

1. 施策の担当	
主管課	健康福祉部 健康推進課
関係課	高齢介護課、国保年金課

2. 総合計画における位置づけ			
総合計画	政策	第3章 やさしさとふれあいのあるまちづくり (安心・健康)	節 第5節 健康・医療
	施策	健康づくり支援の充実	

基本方針
 ・ 保健指導等の実施により、地域の自主的な健康づくり活動の育成支援をし、健康づくりの充実を進め、生活習慣病の予防及び介護予防を図ります。

現況と課題
 ・ 生活習慣病予防対策としての健康診査受診率及び保健指導率が低く、生活習慣病の早期発見及び予防のための行動に結びついていない状況があり、健康診査などの受診率向上が必要です。
 ・ 健康づくりに関する地域における組織活動が全市域に拡大していない状況であり、啓発活動が必要です。

施策目標
 対象 (誰を、何を、どこを)
 市民

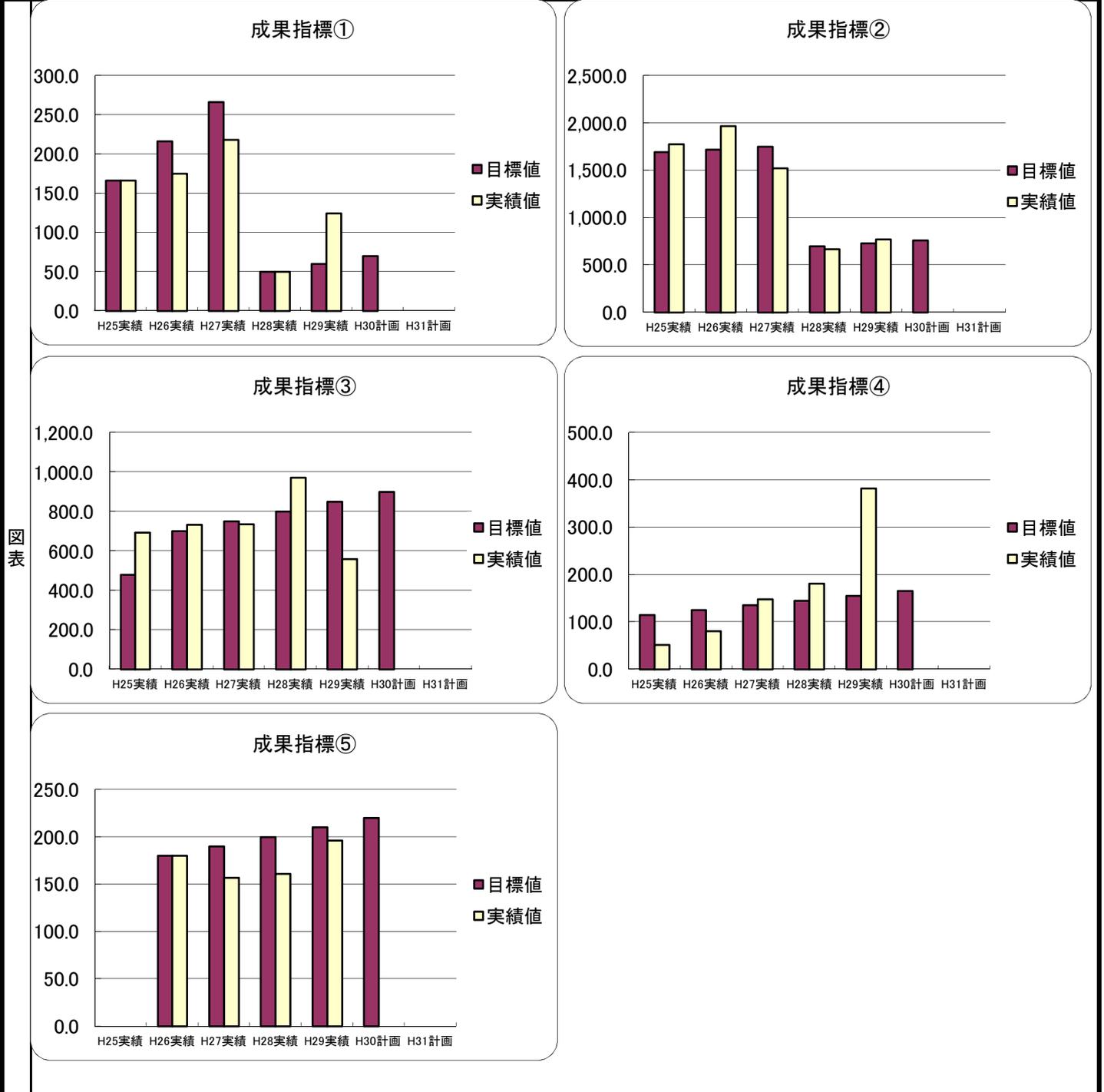
意図 (どのような状態にしたいのか)
 健康寿命をのばし、生活の質の向上を図ります。誰もが安心して充実した毎日を送ることができるよう、保健・医療・福祉施策の充実を図ります。

3. 市民ニーズ							
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
満足度 (偏差値)	60.5						
重要度 (偏差値)	50.6						

4. 施策にかかるコスト								
	単位	H28決算	H29決算					
コストの内訳	人件費	千円	20,996	21,707				
	事業費		27,632	15,932				
	フルコスト		48,628	37,639				
財源内訳	国庫支出金	千円	2,905	2,736				
	府支出金		800	988				
	市債		0	0				
	その他		11	0				
	一般財源1 (=フルコスト-特定財源)		44,912	33,915				
一般財源2 (=直接事業費-特定財源)	23,916	12,208						

5. 施策の成果指標							
① 成果指標 1		健康相談への年間参加者数					
項目	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30計画	H31計画
目標値	166.0	216.0	266.0	50.0	60.0	70.0	
実績値	166.0	175.0	218.0	50.0	124.0		
達成度	100.0	81.02	81.95	100.0	206.67		
指標設定の根拠		目指そう値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
健康相談事業は、市民の健康状態を血圧測定や問診等によりチェックし、健康的な日常生活を過ごせるよう、専門職が適切な助言を行う事業である。この指標により市民の疾病予防に対する関心度がわかる。		H25年度より指標として追加。H25年度の数値を基準として目標値を設定する。保健センターにおける定例の相談窓口とがん検診実施日に併設している相談窓口が主な機会となる。がん検診については実施日の増減があり得るため、それによってこの数値は影響を受けるが、年間で概ね50件ずつ増加させていくことを目標とする。平成28年度からはがん検診実施時の併設相談を廃止したため、目標値から除くこととし、年間10人の自主的相談者の増加を目標とした。よって、目標値に変更あり。		平成28年度から集団検診時の相談は止め、自発的参加の個人相談の開催だけの参加者数とした。最終目標値はイベント開催分を含めたもののため未達成だが、平成29年度の相談は前年度の倍増となっている。			
② 成果指標 2		健康教室等へ年間参加者数					
項目	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30計画	H31計画
目標値	1,690.0	1,720.0	1,750.0	700.0	730.0	760.0	
実績値	1,776.0	1,968.0	1,522.0	665.0	772.0		
達成度	105.09	114.42	86.97	95.0	105.75		
指標設定の根拠		目指そう値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
生活習慣病の予防の推進を図るための知識の普及・啓発に関わる健康教室等への参加者数の増加により、生活習慣病予防に対する意識向上の進捗状況がわかる。		H21年度の追加指標。H21年度実績をベースに毎年30人ずつの増加を目標に設定。H22年度の実績が目標値の110%を上回ったため以後の年度についてH22年度をベースに毎年30人増加と目標値設定。平成28年度からは、実施されるか不明のイベント時の数はその可否により達成率の正しい比較に影響することから目標値から外す。		健康に対する関心が高まりつつあり、平成28年度からは個別意志参加に限り実施したため減少する。受け身参加者から自発的教室参加者の実数として表れる。当初のままイベント参加者を最終目標値に入れているため平成28年度からは最終目標値未達成が続くが、平成29年度は前年を上回る参加者があり単年目標値は達成される。			
③ 成果指標 3		運動に関する健康教室への年間参加者数					
項目	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30計画	H31計画
目標値	480.0	700.0	750.0	800.0	850.0	900.0	
実績値	693.0	733.0	736.0	972.0	558.0		
達成度	144.38	104.71	98.13	121.5	65.65		
指標設定の根拠		目指そう値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
運動に関する健康教室等への参加者数の増加により、運動による生活習慣病予防に対する意識向上の進捗状況がわかるため。		平成25年度はPRを拡大したことによって参加者が目標値より増加。そのことにより26年度の目標を700人とし、毎年50人ずつ増加させ、最終目標を900人とする。		長年の啓発により健康意識を持つ市民の増加から、ウォーキング教室を始めとし、開催毎に一定人数の参加者が集まるようになったが、平成29年度は健康運動指導士の現課配置が廃止され、健康体操教室の実施回数減により参加者数が減少となる。			
④ 成果指標 4		栄養に関する健康教室への年間参加者数					
項目	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30計画	H31計画
目標値	115.0	125.0	135.0	145.0	155.0	165.0	
実績値	51.0	80.0	148.0	181.0	382.0		
達成度	44.35	64.0	109.63	124.83	246.45		
指標設定の根拠		目指そう値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
栄養に関する健康教室等への参加者数の増加により、栄養改善による生活習慣病予防に対する意識向上の進捗状況がわかるため。		22年度の追加指標。22年度実績をベースに毎年10人ずつの増加を目標に設定。		実質、26年度から食育推進計画が動き出したが、29年度は、昨年度同様に計画趣旨の理解を得ることができた自治会の教室において、多くの参加者があったこと。また、関連団体等との連携により、教室の質を上げられたことが要因と考える。			

⑤ 成果指標 5		健康マイレージの参加者数					
項目	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30計画	H31計画
目標値		180.0	190.0	200.0	210.0	220.0	
実績値		180.0	157.0	161.0	196.0		
達成度		100.0	82.63	80.5	93.33		
指標設定の根拠		目指そう値の設定根拠			目標達成・未達成の理由・背景		
健（検）診受診することで自身の健康状態を把握するだけではなく、日常生活における健康活動に対しても熱心に取り組んでいる市民の人数がわかる。		H26年度からの追加指標。年間10人ずつの増加を設定。			昨年より微増も、多くの新しい参加者の獲得には至らなかったのではないかと推測する。また、参加しているがその数に計上されない者（ポイント交換未実施）も想定されるので、交換の方法や開庁日限定での交換なども指標停滞の原因か。		



6. 施策の事後評価			
一次評価 (担当課による評価)	判定項目	評価点	評価理由、今後の方向性等
	施策の成果レベル (過去の推移、周辺市との比較なども含む)	(4点中) 4	対象者・実施方法が異なるため、周辺市との比較は困難。平成28年度からは自発的参加者の教室参加機会の提供に努め、平成29年度は更なる自発的参加者の増加との結果となった。今後もより多くの機会提供に努めたい。生活習慣病予防にかかる教室への特定健診世代(40歳~65歳未満)の参加者数を伸ばす対策が今後の課題となっている。
	施策に対する市民ニーズ	(3点中) 3	健康教室等の内容を毎日の生活に取り入れていきたいという声が聞かれ、市民の生活習慣病予防や介護予防に対する意識の高揚が少しずつ進んでいると考えられる。
	施策を取り巻く状況 (法令等の動向、国・府の政策の動向、社会潮流など)	(3点中) 3	平成20年度の医療制度改革により、老人保健法が廃止になり、健康増進法と高齢者の医療の確保に関する法律に基いたものとなり、健診受診後のフォローの充実の重要性が示された。また、近年は、様々な媒体等が健康について情報発信するようになり、健康活動や疾病の予防や早期治療に対する関心が高まりつつある。
	合計点	(10点中) 10点	
総合評価	A	国や府の健康増進に対する施策への後押しがあり、市民の健康づくりに対する取組みへの機運は高まっていることから、施策の重要度は極めて高いと言える。参加者数減となった健康相談・健康教育の実施方法については、改めて検討する必要がある。	
二次評価 (政策推進課・行財政管理課による評価)	B	目標値の見直しを検討すること。	
三次評価 (理事者による評価)	B	目標値の見直しを検討すること。	

7. 施策を構成する事務事業							
	予算コード	事務事業名	H29年度決算額			H30年度予算	一次評価
			人件費	事業費	一般財源		
1	01026700	健康づくり事業	5,243	8,498	8,451	0	B
2	01027000	公衆衛生対策事業	82	1,126	1,126	0	B
3	01028100	健康増進健康指導事業	13,914	1,046	321	0	B
4	01081740	健康マイレージ事業	864	435	219	0	B
5	02050290	健康増進事業	535	4,827	2,091	0	B
合計			20,638	15,932	12,208	0	